

今年3月、名古屋市のマンションの7階から、2歳の双子が転落し2人とも死亡する事故が発生しました。県内でも、寒河江市のホテルの窓から幼児が落下して大けがをする事故が報告されるなど、同様の事故が後を絶ちません。

特に、窓を開け、ベランダに出る機会も増える夏を中心に事故が多く発生しています。子どもは思わぬところに上ろうとしたり、色々な遊び方をしたりするのでこれからの季節は特に注意が必要です。

転落事故は歩き回れるようになる幅広い年代で発生しています。頭部を中心に広範囲を負傷するケースが多いのが特徴で、高所からの落下は生命にかかわる重大事故につながる可能性があります。

事故防止のポイントとして、まず小さな子どもをベランダや窓のある部屋に一人きりにしないようにし、手すりや柵にがたつきや腐食、脱落などがいないかを点検しましょう。

また、子どもの発達に応じて転落を未然に防止する環境を整えることも大切です。対策として、ベランダの出入り口や窓の施錠、子どもの手の届かないところへの補助錠の装着、ストッパーの使用などがあります。

子どもが乗ることができる足場などを置かないようにすることも大切です。特に注意したいのがエアコンの室外機です。室外機の設置場所がベランダの手すりに近いと、室外機に乗って手すりを超える危険性が高くなります。できるだけ手すりから離れた場所に設置するか、室外機の上に乗れない工夫をすることが必要です。

見守りはもちろん大切ですが、保護者が子どもから片時も目を離さずにいることは困難です。痛ましい事故が起こらないよう、もう一度家の中をよく点検し、問題があれば速やかに対策を講じましょう。